

令和 4 年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
研究成果等概要報告書

研究テーマ名	環境に配慮した農業生産活動による生態系及び社会経済等持続可能性の総合的評価手法の開発に関する研究
政策研連携研究課題名	環境保全型農業による社会経済的影響の評価と生態系への影響も合わせた総合的評価手法の開発に関する研究
研究実施期間（西暦）	2021年度 ～ 2023年度（3年間）
PO	農林水産政策研究所 国井 大輔

1 研究の進捗状況等

環境に配慮した農業生産活動による社会経済的影響及び生態系サービスへの影響の総合的な評価手法開発を目的とし、写真を活用した景観に関するアンケート調査を行った。また併せて、景観評価のための分析手法に関する文献調査や、棚田の調査を行った。

① 写真を利用した景観評価に関するアンケート調査

11月に調査サイトで開催されたお祭りに合わせて、町内の米づくりの風景に関する写真を利用したアンケート調査を実施した。その結果、景観、生産、生物、食、文化の5つのカテゴリにおいて、景観が最も高い選好を示し、世代によってその選好の特徴が異なることが明らかとなった。なお、詳細な分析は今後行うこととしている。

② GISを利用した景観評価の可視化に関する研究

景観の評価のツールである Social Values for Ecosystem Service(SolVES)を活用した評価を行うため、既存の文献調査を行うとともに、有識者へのヒアリングを行った。SolVESを使った研究は森林や国立公園を対象とした事例が中心に報告されており、調査手法としてはアンケートもしくはヒアリング調査によるものが中心となっている。本研究への適用も可能であると考えられる。

③ モバイルデータを利用した農村への来訪者特定に関する研究

農村景観として棚田に注目し、KDDIによるモバイルデータの分析を行った。また、棚田の現地調査及び棚田保全協議会へのヒアリングを行った。

○論文等の投稿

Hayashi, T., Kunii, D., Sato, M. (2021) A Practice in Valuation of Ecosystem Services for Local Policymakers: Inclusion of Local-Specific and Demand-Side Factors, sustainability 2021, 13, 11894.

加藤亮・国井大輔・橋本禅・吉川夏樹・東樹宏和・大澤剛士・杉原創・神井弘之（2022）「生態系サービス評価に向けた環境データ集積と統合化に関する研究」，水土の知 90(9), pp.695-700.

林岳・国井大輔・佐藤真行(2022)「コロナ禍による都市緑地のレクリエーション機能に対する嗜好変化」，環境経済・政策研究，Vol15, No.2.pp.38-41.

○学会等での発表

國井大輔(2022),「生態系サービスの可視化・主流化に向けてーモバイルデータを利用したサービス受益者の推定ー, 農林水産政策研究所特別研究会, 2022年7月13日.

林岳(2022),「国連生態系勘定の概要と生態系サービス評価の国際的な潮流」, 第90回省内ミニ報告会, 2022年7月27日.

國井大輔(2022),「農村景観の観賞者把握に関する研究ースマートフォン位置情報利用の可能性ー」, 第91回省内ミニ報告会, 2022年8月3日.

國井大輔, 米澤千夏, 大風翼, 南健斗(2022),「屋敷林「イグネ」を地域として保全するための課題と考察ー宮城県大崎地域を事例にー, システム農学会 2022年度大会, 2022年10月29日.

(注1) 全研究期間をとおしての研究全体の進捗状況を5行程度で簡潔に記載し、当該年度に研究を実施した研究項目ごとの進捗状況を3～5行程度で簡潔に記載すること。

(注2) 学会発表、論文発表等成果の公表状況(リスト)を添付すること。

(注3) 農林水産政策研究所のホームページで公表するため、未公表データや知的財産等に関する事項については、十分に注意して作成すること。また、公表できる内容のみを記載すること。